

## 【エントリー情報】

自治体名：群馬県・桐生市

学校名（自治体でエントリーされる場合は記載不要です）：桐生市立西小学校

ご記入者：和田 公子

## 【設問】

### 1 貴自治体・貴校で目指している目標（ビジョン）・目標に至った背景・想いを教えてください。

**（1,500文字以内）※可能な限り自治体や学校全体の目標をご記入ください。**

本校では、「主体的・対話的で深い学びのできる児童」の育成を目指し、群馬県教育委員会が示す「はばたく群馬の指導プラン」を手本とした授業実践と授業改善に取り組んでいます。この研修を進めるうえで欠かせないのが、ICT を効果的に活用して、いかに「児童の興味関心を高めて主体的な学びを引き出すか」「児童の多様な考え方や発想を交流してさらに深い学びへとつなげるか」「何となくわかったをはっきりとわかったに変えられるか」の視点です。まずは、児童がタブレットに触れる機会をつくること、基本的な操作を覚えることからはじめましたが、徐々に授業の中での効果的な場面と効果的な活用の仕方を意識して計画を立てるようになってきました。1人1台端末を活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現に向けた授業改善を今後も推進していきます。

### 2 目標（ビジョン）に向けた具体的な個人のお取り組み・学校全体でのお取り組み、学校の枠を超えて市や他校へ広がったお取り組みや、その中で発生した課題や苦勞を教えてください。

**（1,500文字以内）**

「はばたく群馬の指導プラン」を手本として、学校全体の研修として取り組みました。この「はばたく群馬の指導プラン」は、タブレットの導入にあたり ICT バージョンも作られ ICT を基盤とした技術を活用した学習を充実させた「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図ることを目的としています。ICT バージョンを活用して、授業改善に活かしている先生や ICT サポートに聞いて子どもたちの学びが豊かになるように取り組んでいます。しかし、先生の中には、タブレット活用の良さが見いだせず、従来通りの授業を行っている方もいます。授業を見せ合うときのみタブレットの活用をされ、その使い方は ICT サポート頼みになっている先生もいます。もっと気軽にタブレットの活用をしてもらえるように研修で取り組みましたが、研修のあとに、使うことが多くなるだけで持続して活用してもらえるような工夫をしていくことや発信をしていくことが必要だと思います。タブレット活用における格差が、開いてしまっていることを感じています。しかし、どのような研修をしていったらよいのか、どの先生も気軽に活用してくれるのか、どのような発信をしていくと先生方が興味をしめしてくれるようになるのかが課題だと感じます。

### 3 (3-1) ICT を活用することで、先生のご指導や働き方、児童・生徒の学び方や学習への態度、学習成果などにどのような変化があったか、またこれらの変化をどのように評価されているか教えてください。（2,000文字以内）

ICT の活用は、思考を働かせる場面で多く使用しました。図形を簡単に入れたり、色を使えることでよりわかりやすく工夫して描くことができるようになりました。算数の考え方を個別で考え、そのあとクラス全体で

交流しました。時には、1人の考えをみんなで考える場面もありました。今までのノートに書く授業では気がつくことができなかったことも、ICTの活用により、より深く考える機会が生まれたと感じます。1年生では、毎日の健康観察をタブレットで行いました。朝の行事や授業の変更も動画で配信することで、全員に指示が伝わります。また、自分のことをたくさん話したい1年生にとって、動画を撮って教師に送ることのできる健康観察はとてもマッチしました。後ろに人が入らないように意識させることで、情報モラル教育にもつながることができました。音楽の授業では、鑑賞の授業で使いました。二人で1台のタブレットを使い、イヤフォンスプリッターを使い各自のイヤフォンで聴きます。二人で同じ音源を聴くことで、自分たちの力だけでリズムの違いや音がない場所があることに気がつきました。少人数で行うからこそわかることがあります。また、イヤフォンを使うことで、みんなと聴くときに気がつかないことに気づくことができました。クラスみんながいるのに、クラスの中で二人の世界を作ることができるのもICTの強みだと思います。

そして、ICTの活用で変化が大きかったのは、支援が必要だった児童です。読み書き困難な児童に、音声付きの教材の配付をすることで、みんなと同じように進めることができました。また、漢字の動画や算数の補助の動画をクラスの児童より早く宿題で配信したことで、授業に自信を持って取り組むことができました。物語の感想では、言ったことを教師が打ち込み提出BOXにだします。そのあとで、どのような感想が出てきたのかをみんなで話し合いながら同じ意見を持った児童のカードの色を変えていきました。色を変えることで、どんな感想が多かったのか、自分のカードは誰と一緒にするのかを視覚的にわかることができ、意見を言うときに活発に意見を言うことができました。カードに打ち込むことはできなくても、カードの色を変えることは、支援が必要な児童でも簡単にできます。同じ意見を持った児童と意見交換もできて満足そうでした。手悪さやおしゃべりも減り、黒板に書いたことをノートにきれいに書こうとする意欲にもつながりました。音読も教師が読んでいたものを聞いていたのを耳で覚えてみんなの前で発表することもできました。このような支援が必要な児童は、自己肯定感が低く、できないから諦めてしまうことが多くありました。しかし、ICTの活用により自分の力でみんなと同じようにできるようになりました。クラスのみんなから認められるようになったことで、友達に優しく接することができるようになり、クラスが明るくなりました。教師も支援が必要な児童のことを考えながらICTを使う授業を組み立てるようになりました。国語の授業では、挿絵を使って考えさせグループでの話し合い活動を入れたり、二人組でタブレットで問題を作ったりしました。そのような教材研究の仕方が、どの児童にもわかりやすい授業を組み立てることにつながりました。

**(3-2)ICT 活用による成果について、定量的なデータでお示し可能なデータがあれば、教えてください。(1,500 文字以内文字以内) ※本設問のみ任意回答**



音声での教材で書くことが困難でも、音声での回答ができます。このように、支援が必要な児童にだけ配付しなくても、クラス全体に配付できます。また、問題を文章で書いて答えてもらう場合でも、支援が必要な児童のものだけ文章の上に音声を追加して送ることもできます。紙のプリントでは、絶対できない教材です。保護者の方から、「自分一人で宿題に取り組めたことに感激しました」と連絡をいただきました。



物語の感想を書いたあと、同じ感想のカードの色を変え、どんな意見が多かったのかを視覚的にわかりやすくしました。感想を書いて提出したときよりも、提出 BOX の友達のカードをよく読むようになりました。



1 台のタブレットを使って鑑賞の授業をしています。イヤフォンスプリッターを使って同じ音源を聴いています。今までは、気づいてほしいリズムや楽器を一齐に聴いていました。一齐に聴いてしまうとわかった児童が答えてしまい、みんなで確認したり体を動かして気がつかせていました。タブレットを使って二人の世界を作ってあげたところ、自然と体を動かしたり楽器を叩いたりして確認する姿が見られました。教師からの声かけなく、いろいろな動きや声かけをしている子どもたちの姿が見られました。子どもたちが自分たちで取り組ん

でくれるので、子どもたちの様子を見守り、またどんな言葉を使って話しているのかを聞き取って評価をすることができました。音楽が流れていないので、子どもの言葉を聞き取ることが簡単にできました。

#### **4 お取り組みの中でのミライシードの活用画面・活用機能お取り組みの中でミライシードが役立つ場面・活用頂いたアプリ/機能を教えてください。**

**※活用エピソードが複数ございましたら、文字数制限内でご記入ください。1つのエピソードに絞る必要はございません。(2,000文字以内)**

低学年は、オクリンクがとても使いやすく毎日のように使っています。朝の健康観察では、動画で送り合えるのが1年生でも簡単に取り組みました。また、健康観察時に自分の名前や健康状態を手書き入力を入れることで、授業で使う機能を自然と使い慣れることができました。また、授業では使えない絵文字も3つまで入れていいとしたことで、文字以外の表現があることにも気がつきました。画面にほかの友達を入れないことや、撮影している友達の動画には入らないなど、情報モラル教育も一緒にできます。

動画が入られるオクリンクは、授業動画をスクリーンキャプチャーで撮りカードに貼り付けることができます。問題につまずいている児童に、支援にいつあげたいが教師は一人しかいません。そんなときに、ちょっと支援をすればわかる児童には、動画を送りその動画を見させて取り組みませます。教師は、手厚く支援が必要な児童を指導することができます。読書記録をオクリンクでつけました。授業の続きにすることで今までの記録が残り、どんどん感想が多くかけるようになっていくことを喜んでいました。文字数が出ることで、自分の評価ができるようになって感じました。

国語「漢字の形」では、漢字の成り立ちを考える授業をしました。いろいろなカードにどんな形からできているのかを描いて提出します。色がたくさんあるので楽しそうに取り組みました。これは、オクリンクでもムーブノートでもできました。

オクリンクでは、いつも解説動画や支援が必要な児童の宿題を作っています。教科書の写真を撮ってスクリーンキャプチャーを使って動画を撮ります。その時に、読んでいるところに色をつけます。読み終わったら「すべて消す」で消して次に読む場面に色をつけます。色がつけられるので視覚的にどこを読んでいるのかを知らせることができます。(読み上げ教科書も出ていますが、支援が必要な児童は、その場所を開くのにもひらがなを読まないとしたり着けません。簡単に開いて聴くことができるオクリンクは、取り組みやすいのです)